

平成27年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

育て！エゾバイツブ～エゾバイ増殖にかけた漁師～

○氏名又は名称 広尾漁業協同組合 エゾバイツブ籠漁業部会(代表 関下 啓史郎)

○所在地 北海道広尾郡広尾町

○出品財 経営(資源管理・資源増殖)

○受賞理由

・地域の概要

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、東は太平洋、西は日高山脈に面しており、豊かな自然を生かした漁業と酪農業が基幹産業となっている。主な漁業はサケ定置網漁業を主幹としてイカ釣漁業、沖合底びき網漁業の3漁業種類で総水揚金額37億円の約60%を占めている他、マイワシまき網漁業、沖ツブ籠(かご)漁業、ケガニ籠漁業、シシヤモこぎ網漁業が行われている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

広尾漁業協同組合エゾバイツブ籠漁業部会は、平成元年に13名で発足され、その後、高齢化等もあり、現在は8名の体制となっている。

未利用資源だったエゾバイツブは、漁獲量が多いものの単価が安く漁獲量で収入をカバーしていたため、漁獲量は急激に減少し、部会員の所得も大幅に減少した。

このため、部会独自で一定の資源管理対策を講じようとしたが、エゾバイツブの生態特性が不明だったため期待された効果が得られなかった。しかしながら、粘り強く部会内で協議を続け、資源悪化による危機的な経営環境等にあることを全員で共有した上で、部会の共同経営化・資源対策において水産試験場と連携し対応する等の安定化に向けた取組を行っている。

・受賞者の特色

(1) 操業の合理化

共同経営の実現により、従来の過当競争をベースとした操業から、協力・連携による適切な操業に転換できたことが大きな成果である。共同経営によるプール制の導入によって、水揚金額の均等配分、燃油及び餌料経費を均等負担、さらにカゴ数・出荷規格の統一等一丸で実施する経営形態とした結果、経費削減による所得の向上が図られている。

(2) エゾバイの生態特性の解明による資源管理や増殖活動の実践

エゾバイに関する知見の少なさが資源回復の大きな課題であったが、釧路水産試験場と連携し生態特性を解明した。解明した生態特性に基づき、卵塊採取方法を改善し、放流数を増やすことが可能となった。また、禁漁区の設定、未成員の漁獲防止の徹底などの確かな資源管理対策や増殖活動を展開している。

(3) 価格向上対策及び漁業所得の向上と後継者の増加

需要ニーズを調査し、出荷サイズ規制等の徹底により水揚金額が向上し、部会員の平均水揚金額が2倍以上まで拡大。さらに後継者も生まれ始めている。

・普及性と今後の発展方向

エゾバイは道東太平洋沿岸地域で漁獲されているが、部会の取組は周辺地域に波及しており、資源管理や増殖活動の広域的な展開が始まっている。また、部会の成果が基盤となって、持続可能なエゾバイ漁業の操業体制が広域で構築されつつある。

さらに、関係試験研究機関等と連携し、ガイドラインの策定に取り組んでいくこととしており、策定後は、道東太平洋沿岸全域で活用可能であり、極めて普及性が高く、地域漁業への貢献度が高い取組となる。